福祉について

矢浜小学校5年　平野　文音

私のおじいちゃんは、今年の四月に自動車で事故をして病院に3ヶ月入院しました。

たいしたけがもせず、全身だぼくですんで良かったのですが、長い入院生活で自分で起き上がれなくなってしまいました。このままでは家に帰っても、おばあちゃん一人で世話をするのは無理なので、病院の先生に相談して介護老人保健施設でリハビリをさせてもらう事になりました。

おじいちゃんは最初は「まぁ良くならん。」と言っておちこんでいました。そんなおじいちゃんを家族で励ましてリハビリをがんばるように説得しました。

施設に入ってから、お見まいに行った時に介護の人にとても親切にしてもらって笑顔になったおじいちゃんを見て嬉しく思いました。

おじいちゃんは、言葉はやさしいのですが、色々とああしてほしい、こうしてほしいば

20 × 20

かり言って、家族だったら怒られるんじゃな

いのかな？と思いましたが、介護の人は笑顔

で接してくれました。

帰りに、お母さんとおばあちゃんは介護の人

の事を「仕事やけどえらいね。」と感心して

いました。

後日またお見まいに行くと、おじいちゃん

が歩行器で歩く練習をしていました。私はび

っくりしました。起き上がる事もできずにお

ちこんでいたおじいちゃんがんばって歩く

練習をしているおじいちゃんの次は別人でし

た。おばあちゃんに聞いたら、介護の人によ

くしてもらって、毎日励まされながら歩く練

習をしていたそうです。まだ、歩行器なしで

は歩けませんが、トイレに1人で行けるよう

になりました。家族にとっては、それだけで

もとても嬉しい事だと思いました。

今回の事で、介護の仕事の大切さが少しわ

かったように思えました。以前はまだ「お年

寄りのお世話をするんやな。」ぐらいに思っ

20 × 20

てましたが実際は、気づかい体力、忍たい力が必要な大変な仕事だとわかりました。

私は、こういう介護の仕事がなかったらどうなるのだろう？と思い、おばあちゃんに聞いてみました。おばあちゃんは「動けないお じいちゃんを起こす事もできないのに、家での介護はむずかしいだろう。おばあちゃんも調子の悪い時はおじいちゃんの世話をするのは大変。でもトイレに行けるようになったしおじいちゃんが家に帰ってきても、訪問介護の人が様子を見にきてくれてサポートしてもらえると思うだけでも、気持ちが少し軽くなるだろうと思いました。

介護の仕事は、介護される本人にも家にもなくてはならない大切な仕事だと感じました。